

ドイツ語新正書法は受け入れられたか？

中山 豊

1. はじめに

1996年7月1日にドイツ語圏諸国・地域代表によって新正書法の導入が宣言されると、その翌日にはそれに準拠した Bertelsmann 1996 が店頭に並んだ。しかしこの最初の新正書法辞典は8月に Duden 1996 が発刊されるとこれに比して規則集との不整合が多く、¹⁾その後幾度も改訂されることになる。Duden 1996 も形容詞の *spinnfeind* 「敵意を抱いている」を *Spinnefeind* と大文字書きしたり、*wiedersehen* 「再会する」を分かち書きにするなどの多くの問題を抱えていた。この2点に関しては Duden 2001 によって最終的には旧正書法の Duden 1991 に戻る形で決着したが、ドイツにおけるこのような混乱は日本で発行される辞典にも影響を与えた。例えば Duden 1996 に基づいて編まれた独和辞典にはこの正書法辞典の不備をそのまま受け継いでしまったものもある。²⁾

影響は辞書だけにとどまらない。教科書や論文では新正書法導入以前にはありえなかった (1a) - (1c) に代表される新旧混合表記が頻繁に見られるようになった：

(1a) Es tut mir **leid**, dass ich dir nicht helfen kann.³⁾

(1b) Die genannten Probleme legen nahe, dass bei der Analyse verschiedener zu-
Verben eine noch ausführlichere Berücksichtigung der semantischen Seite

der einzelnen Verbklassen **unerlässlich** ist.⁴⁾

- (1c) Was die Basen der zweiwertigen zu-Bewegungsverben betrifft, machen sie die **sogenannte** AKTIVITY-Klasse aus, d.h. Verben, die eine Aktivität darstellen... Im Allgemeinen wird für diese Verbklasse die LCS wie (14) angenommen...⁵⁾

この種の混乱を目の当たりにして筆者は2003年1月から3月にかけて慶應義塾大学と中央大学のドイツ語教員31名に対して新正書法がどれだけ受け入れられているかを調べるために、付録に掲げたようなアンケートを実施した。⁶⁾ 本稿ではこのアンケート調査を手がかりにして、教員における新正書法の浸透度およびその抱える問題を、大文字書きと小文字書き、分かち書きと一語書き、ss/ßの書き分けの3分野に分けて考察してみたい。

2. 大文字書きと小文字書き

大文字書きと小文字書きの区別に関してはアンケートの結果は以下のようになった。⁷⁾

(2a) im allgemeinen	64.5 (20)	im Allgemeinen	35.5 (11)	
(2b) leid tun	77.4 (24)	Leid tun	22.6 (7)	
(2c) gestern abend	45.2 (14)	gestern Abend	54.8 (17)	
(2d) morgen früh	93.5 (29)	morgen Früh	6.5 (2)	
(2e) Schwarzes Brett	9.7 (3)	schwarzes Brett	90 (27)	無回答 3.2 (1)
(2f) Dich	64.5 (20)	dich	35.5 (11)	

ドイツ語では名詞の頭字はすべて大文字で書く、という大原則があるが、形容詞も、Heiliger Vater「教皇」のような固有名詞的に使われる名詞句、Erste Hilfe「応急処置」、Schwarzes Brett「掲示板」のように熟語化した名詞句を構成する場合は大文字で書かれてきた。また逆に本来は名詞であっても heute abendのabendのように小文字書きにしたり zugrundeのように一語の

ように表記して大文字書きしないという傾向もあった。正書法改革といえば、1958年のヴィースバーデン勧告で提唱された「穏健な小文字書き」のように、大文字書きを文頭・固有名詞・敬称の二人称代名詞程度に制限することが従来のものであったが、今回の改革は名詞性があるものは可能なかぎり大文字書きにする、という全く逆の方針をとった。

2.1 小文字から大文字書きへの移行

(2a - d) までは大文字書きへの変更に関するものであるが (2c) の時の副詞の大文字書きのみがかりうじて過半数の教員に認知されていた。

- ・ (2a) の *Allgemeinen* は新規則集 §57 (1)⁸⁾ に従った形で、前置詞と定冠詞の融合形とが共起している点で名詞性が顕著なためか、比較的受容度が高い結果になっている。類似の変更例には *im Folgenden*, *im Übrigen*, *im Wesentlichen*, *im Großen und Ganzen*, *nicht im Geringsten*, *aufs Schöste* (*schönste* も可) などがある。この変更で、旧正書法では可能であった *Man soll auch im Geringsten seinen Nächsten sehen* (些細なもの)/*Es stört mich nicht im geringsten* (= gar nicht) のような本来の形容詞の名詞化との書き分けが不可能になった (Ickler 1997: 94)。
- ・ (2b) の新形 *jm. Leid tun* は *Recht haben*, *jm. Spinnfeind sein*, *jm. Angst und Bange machen* などとともに文法的に適切とはいえない大文字書きである。アンケートの例文の *leid* は副詞 *so* で強調されているところからも名詞ではないことが明らかである。同様に *Der macht mir unheimlich angst*/**Der macht mir unheimliche Angst* の対比も *angst* が名詞ではなく、したがって大文字書きが不適切であることを明らかにしてくれる。
- ・ 唯一過半数の支持を受けた §55 (6)⁹⁾ (2c) の時の副詞である *Abend* の大文字書きであるが、その類推から可能であるはずの (2d) の *morgen Früh* の形は回答者の 6.5% に認められているに過ぎない。Duden 1996, Wahrig 1997 にはまだこの形はなく、Duden 2000, 2002; Wahrig 2000, 2002 が *morgen früh* の変種として後に記載したもので、認知度が低いのも首肯できる。

2. 2. 大文字書きから小文字書きへの移行

大文字書きを増やす傾向にある新正書法だが、成句内の形容詞と手紙の中の親称の二人称の人称代名詞および所有冠詞は従来の大文字書きを廃して、小文字書きに移行した。

- ・ 旧正書法では大文字で書かれていたSchwarzes Brett「掲示板」やArchimedischer Punkt, Erste Hilfe, Gelbe Karte, Schneller Brüterなどの結びつき方が成句的ではあるが、固有名詞ではない名詞句の形容詞は、§63の規定で、小文字で書くことになった。(2e) が示すように回答者の9割が新正書法を選んでいる。この結果が新规定が浸透したためなのか、schwarzが形容詞なので単純に小文字で書いたのか、付録の提示文4が「掲示板」を意味するのか「黒い板」を意味するのかがわからなかったためかは特定できない。ちなみにドイツの通信社では上掲のような成句は大文字書きを維持している (Wahrig 2002: 71)。
- ・ 新正書法§66は「呼称代名詞 du と ihr, およびその所有代名詞 dein と euer と再帰代名詞は小文字で書く」ことを規定しているので、手紙での呼称代名詞の大文字書きは廃されることになった。もっとも新正書法は学校と官庁においてのみ拘束力をもつだけなので、私信ではこの規定を守る必要はない。教科書の手紙文などは新正書法の小文字書きを採用しているものが多いが、6割以上の教員が従来どおりの大文字書きを選択していることは新規則が十分に浸透していないことを示している。付録の提示文(18) は実はシュレーダー首相がアメリカのブッシュ大統領に宛てた手紙であるが、オリジナルでは公文書であるにもかかわらず旧正書法に従って大文字書きになっていた。

3. 分かち書きと一語書き

新規則集の分かち書きと一語書きの章の前書きには、「分かち書きか一語書きかが問題になる場合には分かち書きを基本とする」(在間 1997: 93), という原則が書かれている。これによって新正書法では (3f) のようなわずかな

例外を除いて、分かち書きが増えることになる。この分野でのアンケート結果は以下のとおりである。

(3a) <i>gewinnbringend</i>	41.9 (13)	<i>Gewinn bringend</i>	51.6 (16)	両方 3.2 (1)
	無回答 3.2 (1)			
(3b) <i>auseinandersetzen</i>	67.7 (21)	<i>auseinander setzen</i>	29.0 (9)	両方 3.2 (1)
(3c) <i>verlorengegangen</i>	54.8 (17)	<i>verloren gegangen</i>	41.9 (13)	両方 3.2 (1)
(3d) <i>wiederzusehen</i>	80.6 (25)	<i>wieder zu sehen</i>	19.4 (6)	
(3e) <i>sogenannt</i>	71.0 (22)	<i>so genannt</i>	16.1 (5)	sog.3.2 (1)
	無回答 6.5 (2)			
(3f) <i>zur Zeit</i>	87.1 (27)	<i>zurzeit</i>	12.9 (4)	

- ・ (3a) のアンケート結果で分かち書きを選択した回答者のほうが多かったのは驚きである。*gewinnbringend*/*Gewinn bringend*のような「動詞の目的語 + 現在分詞」で表される言語形式は、全体を1つの形容詞と考えるか、動詞的句として考えるかで一語書きか、分かち書きが決まる。旧正書法では単純に名詞を修飾する場合にはどちらの形も可能である (*ein gewinnbringendes/Gewinn bringendes Geschäft*)。分かち書きが義務的になるのは目的語にあたる名詞が別の語によって限定される場合 (*ein großen Gewinn bringendes Geschäft*) に限られ、副詞による限定を受ける場合 (*ein äußerst gewinnbringendes Geschäft*)、比較変化する場合 (*ein noch gewinnbringenderes Geschäft*)、述語的に用いられる場合 (*Das Geschäft ist gewinnbringend*) は全て形容詞として一語書きされねばならない。アンケートの提示文 (5) では *gewinnbringend* は述語的に用いられているので、文法的に考えて一語書きしかありえない。分かち書きを認める場合には、*Die Personen waren sprechend (Gallmann/Sitta 1996: 126) のような明らかな非文における動詞的分詞をも容認することになるからだ。新正書法に移行したドイツの有力紙 *Die Zeit* も旧正書法の *alleinstehend, besorgniserregend* などの一語書きを維持している。新正書法は規則そのものは変わ

っていないのに辞書編纂者の解釈には揺れがあり, Dudenなどの辞典での記述は以下のように変化している:

(3a) **Duden 1991:** *gewinnbringend*のみが見出し語。

Duden 1996: *Gewinn bringend*が見出し語となり, *gewinnbringend*は *Gewinn*の項で言及。

Duden 2000: *Gewinn bringend*を主な見出し語として掲げるが, *gewinnbringend*も変種として併記。

Duden 2001: *gewinnbringend*のみを見出し語として独立させ, *Gewinn bringend*は *Gewinn*の項で言及。

Wahrig 2002: *gewinnbringend*を主な見出し語として掲げ, *Gewinn bringend*も変種として併記。 *Gewinn*の項でも両者に言及。

文相会議に提出した正書法改革推進派による改革の実状についての第3回報告書 (3.Bericht 2001: 39)によれば,「(Bertelsmann 1999, Duden 2000などの)標準的な辞典の間には新規則の解釈をめぐっての特筆すべき違いはなくなった」はずであるが,この報告書が正しいとすれば,その後も Duden 2001や Wahrig 2002のような異なった記載が続出するのはなぜなのか,という疑問が残る。

- ・ (3b) のような「前置詞 + *einander*」は動詞の前綴りとしては一語書きされ (例: *siamesische Zwillinge, die unglücklicherweise aneinanderhängen*), 独立した文成分としては分かち書きされていた (例: *Geschwister, die liebevoll aneinander hängen*)。¹⁰⁾ 新正書法の §34の E3(2) は, アクセントや意味の違いは考慮せずに「前置詞 + *einander*」は一律に分かち書きするよう規定している。 *auseinandersetzen* と *auseinander setzen* も後者に統一される。この措置で *Daß man sich nicht unbedingt auseinander setzt, wenn man sich auseinandersetzt* (Deutsche Akademie 2003: 16) のような意味の識別ができなくなる。分かち書きを選んだ回答者は3割に満たず, 認知度は低い。
- ・ §34E3 (4) の *gefangen nehmen (halten), geschenkt bekommen, getrennt*

schreiben, verloren gehen)のような「過去分詞+動詞」の結合は分かち書きにする, という規定に基づき (3c) のような場合には新正書法では *verloren gegangen* と分かち書きになる。この分かち書きは (3b) のようなアクセントや意味の違いとは関わっていないためか, 新旧両正書法の間であまり差はでなかった。問題は回答者の側にはなく *getrennt schreiben* のような添加成分+動詞と *bekommen* 受動のような全く異なった構成のものを, 同列に扱っている規定そのものにある。

- ・ (3) の *wiedersehen* の辞典での扱い方は (3a') の *gewinnbringend* の場合と似て以下のように紆余曲折を経て最後には10年前と同じ記述に戻っている:

(3d') **Duden 1991:** *wiedersehen* が見出し語。

Duden 1996: *wieder sehen* が新たに見出し語になり, *wiedersehen* は消える。

Duden 2000: *wiedersehen (ein Wiedersehen feiern)* が見出し語で, *wieder sehen (erneut begegnen)* を変種として併記。

Duden 2001: *wiedersehen* のみが見出し語。

(3d') に見られる辞書の混乱は辞書編纂者の責任ではなく, 中山 (2003: 8) で示したように新正書法の曖昧な規定そのものに原因があると考えられる。このように新正書法導入以来たびたび辞書の記述が変わることによって利用者が混乱するのは目に見えており, 分かち書きを選んだ2割近くの回答者はこのような絶えず変化する辞書の犠牲者であると言えよう。

- ・ (3e) の *sogenannt* の分かち書きは新規則集の語彙索引では §39E2 (2.4) に依拠する, と明記されている。そこに挙げられているのは *so + hoch, oft, viel, viele, weit* などのいずれも比較変化可能の形容詞や副詞を表す例であり, これに対応するのは *etwas so nennen* の受動分詞形であろう。しかし, これは引用符の代行機能をもち語彙化した *sogenannt* とは全く性質を異にするものである。それは *die mit Recht so gennante/*sogenannte Vaterstadt*

のような異なった統語的ふるまいから説明できる (Iclker1999: 232)。新正書法に移行したメディアがなぜたびたび「誤って」sogenannt と一語書きしてしまうのか、スイスの有力紙 Neue Zürcher Zeitung がなぜ自家版正書法で一語書きを選択したのか、¹¹⁾ 理由は自明であろう。sogenannt の一語書きは、違いの分かる言語感覚を有していることの指標であると同時に、伝統的正書法への間接的支持表明でもある。7割以上の回答者が一語書きを選択している事実は重い。

- ・ (3f) の zurzeit は Duden 1991 でもスイスやオーストリアの変種としては記載されていたが、新規則では唯一認められる形になった。分かち書きを原則とする新正書法の中で一語書きを認めた数少ない例の1つであり、予想通りに13%弱という認知度の低い結果になった。

4. ss/ß の書き分け

新正書法の導入によって、短母音の後の ß は ss で置き換えられることになった。この変更は daß/dass というきわめて使用頻度の高い語と関わっているのも、あるテキストが新旧どちらの正書法に従っているかを判断する際の最も有力な手がかりとなる。ss/ß の書き分けに関係するアンケート調査の結果は以下の通りとなった:

(4a) daß	38.7 (12)	dass	58.1 (18)	両方 3.2 (1)	*das 0
(4b) Grüßen	77.4 (24)	*Grüssen	22.6 (7)		

- ・ 大文字書き、分かち書きの分野ではあまり受け入れられていない新正書法であるが、(4a) で dass が6割近くの支持を受けているように、ss/ß の新しい使い分けは認知度が高い。これは母音の長短の違いが分かるようになった、あるいは動詞の変化が一部ではあるが分かり易くなった、という2つのメリットがあることと関係しているのではないかと推量できる。すなわち、旧正書法では [s] 音は短母音の後 (例 Fluß) も長母音の後 (例 Fuß) も ß で表記されたが、新正書法では Fluss/Fuß のように発音で両者が区別され

る。また動詞の現在変化では wir essen, er isst のように, ss/ß の交代に煩わされる場合が少なくなった (ただし, wir wissen, er weiß ではやはり交代する)。

新規則がメリットだけをもたらすのであれば, この変更は無条件に賛成すべきところであるが, そのデメリットをも忘れてはならない。旧正書法では母音の長短が分からなくても語末の [s] は (Bus, aus, Ergebnis などの新正書法でも残った例外を無視すれば) ß と書けば済んだが, 新正書法では標準発音ができない者は正しい表記もできないことになる。したがって方言話者や DaF 学習者にとってはかえって間違いの元になる可能性がある。「1 リットル」を意味する Maß をバイエルン方言話者なら Mass と表記することになるであろう。¹²⁾ また, 外国人が間違いを犯しがちなことは, (4b) の結果が示している。Grüßen はスイスを除外すれば新旧いずれの正書法に従っても ß で表記しなければならなのに, 2 割強のドイツ語教師が ss を選んでいることから, 新規則はその目標である正書法の誤りを減らす役目を果たさないばかりか, かえって誤りを助長している方向に働くことがわかる。誤って Grüßen を選んだ 7 名の回答者は全て新正書法の dass を使用する回答者で, 旧正書法の daß を選んだ者は 1 人もいなかった。¹³⁾

ちなみにドイツにおいて正書法全体における誤りのうち 6% は接続詞の daß と関係代名詞の das との区別であるといわれているが (Ickler 1997: 33), 今回の回答者は一人として das を選ぶものではなく, ドイツ語教師の文法的知識の確かさを示してくれた。

5. 結語

以上見てきたように, 新規則の浸透度は一部の領域を除いては全体的に低い。また, 本アンケートの提示文 (20) の新正書法に対する意見を尋ねる質問からは, 回答者たちの否定的な態度がうかがえる。すなわち, 改革に対する賛成者は 19.4% (6 名), 反対者は 41.9% (13 名), 無回答が 38.7% (12 名) で, 賛成者は 2 割にも達していない。¹⁴⁾ 新正書法表記が実際にはあまり使用されな

い背景には、この否定的態度があるものと考えられる。ただ、この態度もそのまま維持されとも思われぬ。なぜならば、(4a) で見たように、*dass* と表記する回答者は58.1%もあり、ss/ßの書き分けに際して新正書法に従うものは新正書法に真に反対する者ではないからだ (Deutsche Akademie 2003: 13)。

注

- 1) 例えば最初の Bertelsmann 1996は新正書法に従えば *bläuen, fertig haben, Fin de Siècle* となるべきところが, *bleuen, fertighaben, Fin de siècle* などの旧正書法表記になっている。
- 2) 例えばアクセス独和辞典 (三修社 2003年), アポロン独和辞典第4版 (同学社 2003年) など。この問題が認識された後に発刊されたフロイデ独和辞典 (白水社 2003年) は *spinnefeind, wiedersehen* の形を見出しにしている。
- 3) ドイツ文法の基礎《改訂版》(第三書房 2003年), 46頁。(1a) - (1c) におけるゴシック体は旧正書法の形を, 下線は新正書法の形をそれぞれ表す。
- 4) 『ドイツ文学』109号, 237頁。
- 5) 『ドイツ文学』109号, 238頁。
- 6) アンケートに先立っては *was Sie für richtig halten oder was Sie bevorzugen* とあるのは, 「自分が使う形」あるいは「学生に進められる形」のいずれの意味で解していただいてもよい, と口頭で説明した。質問20の *für/gegen* は新正書法に対する賛否を, *weil* 以下にはその理由をそれぞれ尋ねた。ご協力いただいた方々にはここに記して厚く感謝したい。
- 7) 左側が旧, 右側が新正書法の語形で, 数字は%を, () の中の数字は絶対数を表す。
- 8) § 57 「名詞以外の品詞が名詞として使われる (名詞化) の場合, 語頭を大文字で書く」(1) 名詞化された形容詞, 形容詞的分詞 (特に *alles, allerlei, etwas, genug, nichts, viel, wenig* などと結びついて) (在間 1997: 123)。
- 9) § 56 「名詞の語頭は大文字で書く」(6) 副詞 *vorgestern, gestern, heute, morgen, übermorgen* の後に続く, 一日の時間区分を表す語 (在間 1997: 118, 121)。
- 10) ドイツ語の例はいずれも Icker(1997: 63) による。下線部はアクセントの位置を示す。
- 11) Deutschlandfunk は新正書法を採用しているが, その放送テキストには度々 *sogenannt* と一語書きされた形が使用されている:
Rauschgift-Fahnder hatten gestern Büro- und Privaträume Friedmanns durch-

sucht und dabei drei **sogenannte** szene-typische Päckchen mit Resten einer weißen Substanz gefunden. (12. Juni 2003, 18:00 Uhr)/Den Friedensplan, die **sogenannte** „road map“, nannte er einen Weg in die Zukunft und bekräftigte, Deutschland wolle gemeinsam mit seinen Partnern alles tun, damit aus der Perspektive Realität werde. (22. Juni 2003, 18:00 Uhr)

また以下の例はNZZの徹底した一語書きを示している：

Das Gegenüberstellen von **sogenannten** alten und **sogenannten** neuen Methoden gehört zur Rhetorik der Reform: ... und die Schule hat diese **sogenannt** konservativen Methoden deshalb auch nie verloren oder abgelegt. (22.6.03 NZZ am Sonntag)

- 12) 事実Duden 2001はバイエルン、オーストリアの変種としてMassを認めている。このような恣意性は誤用を招く原因となりかねない。例えば日本独文学会機関紙『ドイツ文学』2002年109号の別冊のある旅行代理店の広告には „Die Reise nach Mass!“ という新正書法でも認められていない表記の惹句が掲載されている。
- 13) dass を使用する回答者は他の分野でも誤りを犯す確率が高い。付録の提示文 (2) のins Besondereは新旧いずれの正書法にもそぐわない形だが、これを選んだ8名のうち7名までもがdassを選んだ回答者であった。
- 14) ドイツ語圏でも新正書法の支持率は低く、最近の世論調査では以下の結果が示すように、改革に賛成する市民は1割程度である：

	今回の改革に 賛成	今回の改革に 反対	態度不明
オーストリア	9%	57%	34%
ドイツ	10%	56%	33%

オーストリアの調査はImas研究所が2001年8月～9月に1081人を対象に、ドイツの調査はAllensbach研究所が2002年3月～4月に1073人を対象にそれぞれ行ったもので、Imasの結果は2001年9月27日付けのDie Presse, AllensbachはAllensbacher Berichte 2002/Nr.7による。

参考文献

- Bertelsmann: Die neue deutsche Rechtschreibung. Gütersloh, 1996.
 Dritter Bericht der Zwischenstaatlichen Kommission für deutsche Rechtschreibung. 15.
 12. 2001. (= 3.Bericht)

- Deutsche Akademie für Sprache und Dichtung(Hg.): Zur Reform der deutschen Rechtschreibung. Ein Kompromißvorschlag. Göttingen, 2003. (= Deutsche Akademie)
- Duden: Rechtschreibung der deutschen Sprache. 20. Aufl. Mannheim u.a., 1991.
- Duden: Rechtschreibung der deutschen Sprache. 21. Aufl. Mannheim u. a., 1996.
- Duden: Die deutsche Rechtschreibung. 22. Aufl. Mannheim u. a., 2000.
- Duden: Deutsches Universalwörterbuch. 4. Aufl. Mannheim u. a., 2001.
- Gallmann, Peter/Sitta, Horst: Duden. Die Neuregelung der deutschen Rechtschreibung. Regeln, Kommentar und Verzeichnis wichtiger Neuschreibungen. Mannheim u.a., 1996.
- Ickler, Theodor: Die sogenannte Rechtschreibreform. 2. Aufl. St. Goar, 1997.
- Ickler, Theodor: Kritischer Kommentar zur „Neuregelung der deutschen Rechtschreibung“ mit einem Anhang zur „Mannheimer Anhörung“. 2. Aufl. Erlangen/Jena, 1999.
- Wahrig: Deutsches Wörterbuch. Gütersloh, 1997.
- Wahrig: Deutsches Wörterbuch. Gütersloh, 2000.
- Wahrig: Universalwörterbuch Rechtschreibung. München, 2002.
- 中山 豊 「ドイツ語新正書法§34の問題」『藝文研究』第84号, 2003, 1-16.
- 在間 進 (編)『ドイツ語「新正書法」ガイドブック』三修社, 1997.

付録

Kreuzen Sie bitte an, was Sie für richtig halten oder was Sie bevorzugen!

1. Im allgemeinen/Allgemeinen werden Fußballer unterschätzt, was ihre sprachlichen Fähigkeiten anbelangt.
2. Alle lachten, insbesondere/ins Besondere sein Vater.
3. Aus der Sache kann nichts werden – so Leid/leid es mir für dich tut.
4. Hier kannst du eine Nachricht auf das schwarze/Schwarze Brett schreiben.
5. Sein Verhalten ist letztlich risikolos und sogar gewinnbringend/Gewinn bringend.
6. Wir müssen uns mit diesem Problem auseinandersetzen/auseinander setzen.
7. Dabei waren zwei europäische Satelliten verloren gegangen/verlorengegangen.
8. Bundesrepublik wird für zwei Jahre nicht ständiges/nichtständiges/nicht-ständiges Mitglied im UN-Sicherheitsrat.
9. Wie habe ich mich gefreut, Sie wiederzusehen/wieder zu sehen.
10. Er hat sein verlorenes Geld wiedergewonnen/wieder gewonnen.
11. Sein Vater ist zurzeit/zur Zeit krank.
12. Die Hochwasser-Schutzzentrale erwartet bis morgen früh/Früh einen Pegelstand

von sieben Metern 50.

13. Der saudi-arabische Außenminister Saud al Faisal erklärte gestern abend/Abend, Bagdad habe seinen Widerstand bereits fallengelassen/fallen gelassen.
14. Durch die Steuer und die aufwändigere/aufwendigere Herstellung werde sich der Preis je Liter Benzin dann noch einmal um drei bis fünf Cent erhöhen
15. Ging das von Anfang an gut mit Ihrer Selbständigkeit/Selbstständigkeit? Deshalb ist es schwierig, Tips /Tipps zu geben.
16. Zwei Hand voll/Zwei Handvoll Schauspieler singen ein paar Dutzend Lieder
17. (a) We-ste/Wes-te (b) schön-stens/schöns-tens
(c) ba-cken/bak-ken (d) Hüt-te/Hü-tte
18. Lieber George, ich möchte Dich/dich auf diesem Wege wissen lassen, wie sehr ich bedauere, dass durch angebliche Äußerungen der deutschen Justizministerin ein Eindruck entstanden ist, der Deine/deine Gefühle tief verletzt hat. ...
Mit freundlichen Grüßen/Grüssen, Gerhard Schröder
19. Das Argument, das/dass/daß die Grenze für inflationsfreies Wachstum angestiegen ist, sollte nicht überreizt werden
20. Ich bin für/gegen die sogenannte/so genannte/sog. Rechtschreibreform, weil.....

Danke!

